

宮城県の大川小学校という学校を、聞いたことはあるでしょうか。

2011年3月11日の東日本大震災で、全校児童108人のうち74人、そして11人の先生のうち10人の尊い命が失われた学校です。

私は、北陽高校の生徒の皆さんと先生方が大好きです。だから、大川小学校で起こった悲劇が、明日、北陽高校で起こってしまうかもしれないと想像すると、言葉にならない恐怖を覚えます。今、皆さんの前にいる先生も、同じようなことを考えるかと思います。

大地震・大津波なんて起こるはずがない、と考えたくなる気持ちは分かります。しかし、残念ながら、その考えに根拠はありません。むしろ、「いつ起こってもおかしくない」と気象庁は示しています。

今日の訓練は、釧路沖で巨大地震が発生し、大津波警報が出され、まもなく東日本大震災級の大津波が釧路に到達するという想定で、学校にいる場合の対応を確認するものでした。ここで、皆さんに三つの問いを投げます。少し時間を取るので、自分で考え、近くの人と考えを共有してみてください。

- ① 校舎が倒壊しそうな場合、どのように避難するべきでしょうか。
- ② 登下校中に起こった場合、どのように行動するべきでしょうか。
- ③ 真冬の深夜に起こった場合、どのように行動するべきでしょうか。そして、自分の命を守りながら、あるいは守った後、高校生として何ができるのでしょうか。

最初に話した大川小学校の出来事は、決して遠い世界の話ではありません。平常時である今、少しでも真剣に考えることが、自分や自分にとって大切な人の命を守ることにつながるのではないのでしょうか。